

神宮と伊勢のまちを伝える

O I S E S A N N E W S

お伊勢さんニュース

(有)伊勢文化舎 / 〒516-0008 三重県伊勢市船江2-22-25 TEL:0596-23-5166 FAX:0596-23-5241 E-mail:otayori@isebito.com

リーフレット版 第2号

企画・発行：伊勢文化舎
発行日：令和6年6月1日
協力：東京大神宮



倭姫命ゆかりの地・二見浦から鳥羽湾を望む (ドローン撮影 鈴木和宏)

オンライン講座 第一期

テーマ「倭姫命と現代日本人へのメッセージ」

講師 池田雅之氏(早稲田大学名誉教授)

第一期ではラフカディオ・ハーン(日本名・小泉八雲)研究の第一人者である池田雅之先生が、講師を務めます。専門の比較文化・比較文学から、三回にわたり倭姫命を熱く語っていただきます。今年、倭姫命が再び注目を集めることでしょうか。ご期待下さい。

オンライン講座のご案内

とき 令和6年7月～9月(3回シリーズ)
第1回 7月27日(土)
第2回 8月31日(土)
第3回 9月28日(土)
時間 各回とも19時～20時30分
定員 100名(定員になり次第締め切り)
会費 全3回で3,000円(税込)
形式 オンライン講座(Zoomを使用)
講師 池田雅之氏(早稲田大学名誉教授)
主催 (有)伊勢文化舎
後援 伊勢市 伊勢市教育委員会
*申込みの詳細はP3をご覧ください。

報告

「倭姫命」東京講座を 東京大神宮で開く

伊勢文化舎と東京大神宮では、倭姫宮のご鎮座一〇〇周年(令和五年)を記念して、昨年十二月一日(金)午後六時から東京講座を開催しました。テーマは「伊勢神宮のはじまりと倭姫命」。講座では神宮司庁制作の「倭姫命の旅 伊勢神宮への道」を映像上映後、東京大神宮の松山文彦宮司が開講のあいさつを行い、続いて三人の講師による講演(写真)を行いました。

講演者とテーマは以下の通りです。
「倭姫命とは? 命に学ぶことは」
(文筆家 千種清美氏)

「御鎮座地をもとめて旅に出る巡行の目的」
(神宮司庁広報室次長 音羽 悟氏)
「倭姫宮の創建と倭姫命」
(皇學館大学名誉教授 櫻井治男氏)

講演後には参加者との意見交換が行われました。会場の東京大神宮には都内や近県から百二十人の参加があり、そのうち三十代～五十代の女性が約半数以上を占め、アンケートの回答からも女神・倭姫命への関心の高さが示されました。



質問	計
受講のきっかけ、理由(複数回答可)	
倭姫命に以前から関心がある	47
倭姫宮に参拝したので	27
伊勢神宮に関心がある	69
『古事記』『日本書紀』等に関心がある	38
その他	9
倭姫命について以前から知っていたか	
知っていた	78
始めて知った	20
講座は良かったか	
よかった	86
普通	5
分かりにくかった	1
講座の中で関心をもったテーマ(複数回答可)	
伊勢神宮のはじまり	58
倭姫命の巡行	77
人物像	55
倭姫宮の創建	35
その他	3
伊勢市の倭姫宮に行ったことがあるか	
行ったことがない	37
行ったことがある	59
回数(1回か複数回かで集計、曖昧回答等のため合計は一致しない)	1回=25 複数回=29
回答者の属性(無記入があるため回収数と合計は一致しない)	
男性	20
女性	66
～20代	2
30代	5
40代	15
50代	42
60代以上	30

令和7年版 第35作 伊勢講暦(カレンダー)



九月から予約受付開始!
[11月発売]
テーマ「ご神木の旅ー木曾から伊勢へー」

来年予定されている御遷宮の祭りの一つ、「御杣始祭」(御用材を木曾の御杣山で正式に伐り始める祭)に焦点を当て、御用材の搬送ルート(木曾ー桑名ー伊勢)を美しい写真と詩歌で紹介しします。(撮影 阪本博文)

定価 1部660円(税込)、送付は1700円(税・送料込)
販売 三重県内の主な書店、Amazon
発行・発売 伊勢文化舎
お問合せ TEL 0596-23-5166 FAX 0596-23-5241
http://www.isebito.com

「お伊勢さんニュース」購読のご案内
<定期購読も受付中>
5部まで300円(送料共)。住所、名前、電話番号、メールアドレス、部数を記入し、伊勢文化舎までお送りください。(切手可)
〒516-0008 伊勢市船江2-22-25 伊勢文化舎
「お伊勢さんニュース」購読係
TEL 0596-23-5166
1号、2号はQRコードでご覧下さい。



3号予告 お伊勢さんニュース 6月下旬発行 特集 神宮式年遷宮の準備が始まる

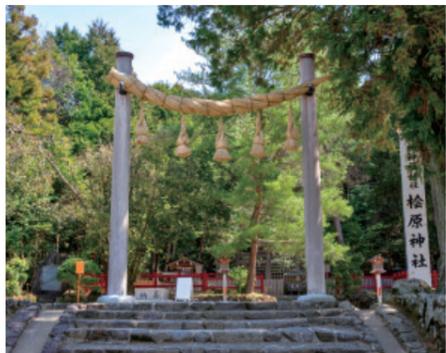
四月、天皇陛下から次期の神宮式年遷宮(令和十五年)について具体的な準備を始めるようにとの許可(御聴許)を受けて、神宮ではこれから遷宮準備が本格的にはじまります。

第三号では、専門家のインタビューと前回遷宮の小社取材記録(文章、写真)を使用して遷宮の諸祭等を紹介し、ます。六月下旬と十月の発行予定です。



1号(令和5年7月5日発行) 特集 二千年の時空を越えて、倭姫と出会う旅

2号(令和5年10月1日発行)
特集 倭姫宮のご鎮座百周年を祝う



天照大御神は最初、橿原神社でお祀りされていた(奈良県桜井市)



倭姫命がお祀りされている倭姫宮(伊勢市)

大和から伊勢に至る天照大御神と倭姫命の巡行の旅を追いながら、その目的と意味を明らかにしてゆきます。そして、倭姫命による伊勢神宮創建のいしずえの謎にも、迫りたいと思います。

現代を生きる私たちにとって、日本の国柄や日本人としてのアイデンティティを知る上で、極めて重要な内容を含んでいます。今日の日本人の生き方の指針となる要素が、多いように思われます。

第一回 7月27日(土)
19時~20時30分

【テーマ】
天照大御神と
倭姫命の「巡行の旅」の
現代的意味を探る

— 伊勢神宮創建の謎 —

第二回 8月31日(土)
19時~20時30分

【テーマ】
日本の国づくりは
「記紀神話」や「倭姫命世記」では
どのように語られてきたか？

— 倭姫命のまちづくり・
人づくりのソフトパワー —

第三回 9月28日(土)
19時~20時30分

【テーマ】
世界から見た日本の
国づくりの在り方の特徴
とは何か？

— 日本とギリシャ神話の
比較から見えてくるもの —

最終回は、世界の国づくり神話(ギリシャ、聖書、メソポタミアなど)と比べて、日本の国づくり神話の特徴を語ります。とりわけ『倭姫命世記』とギリシャ神話のヘシオドスの『仕事と日』を比べてみると、日本と西洋の国づくり神話の大きな違いがわかります。



倭姫命のご巡行を経て天照大御神が御鎮座された内宮(伊勢市)

お申込み方法

参加される方はメール、FAX、ハガキでお申し込み下さい。電話での申し込みはできません。
＜申し込み先＞
メール otayori@isebito.com
FAX 0596-23-5241
ハガキの場合は下記宛にお送り下さい。
〒516-0008 伊勢市船江2-22-25
(有)伊勢文化舎 オンライン講座係

小社から銀行振込、または郵便振込のご案内をしますので、指定日までにお振り込み下さい。

なお、振込料は参加者負担をお願いします。また、入金された会費は当日欠席の場合でも返金はいたしませんので、ご了承下さい。

振込を確認次第、正式に参加者としてカウントします。

開催日の約1週間前にZoomの招待メールをお送りします。

当日、欠席の方には、後日、録画メールをお送りしますので視聴して下さい。(約10日間)

●お問合わせ
伊勢文化舎 オンライン講座係
TEL 0596-23-5166
Email otayori@isebito.com

「倭姫命と現代日本人へのメッセージ」

— 天災・疫病・戦争の時代の平和と幸せとは何か —

講師 池田雅之先生(早稲田大学名誉教授)

【講師メッセージ】

令和5年(2023)は倭姫命が伊勢に鎮座されてから一世紀が経過しました。倭姫命の40年近くにわたる天照大御神の御杖代としての巡行の旅は、現代の私たちにとって多くの重要なメッセージを含んでいます。天災、疫病、戦争の時代において、倭姫の平和と融和を求める巡行は、日本のみならず世界に向けての大切な教えを説いていると思います。



いけだ・まさゆき プロフィール

三重県尾鷲市生まれ。専門は比較文学、比較基層文化論。著書に『100分de名著 小泉八雲日本の面影』(NHK出版)、『小泉八雲 日本美と靈性の発見者』(角川ソフィア文庫)、『古事記と小泉八雲』(かまくら春秋社)、『お伊勢参りと熊野詣』(かまくら春秋社)、『熊野から読み解く記紀神話』(扶桑社新書)他。翻訳に『日本の面影』、『日本の面影II』、『日本の怪談』(角川ソフィア文庫)他。

天照大御神のご鎮座の地をもとめて「巡行の旅」に出た倭姫命の一行は、各地域で米づくりや機織りを指導しながら、伊勢を目指しました。それは信仰と米づくりとが一体になった融和と平和の穏やかな国造りの旅でした。この旅を通じて命が私たちに現代人に語りかけるものとは。



和紙人形 倭姫命(阿部夫美子作)

ギリシャのヘシオドス(前8~7世紀頃)は、『仕事と日』で、戦争に明け暮れる人類の愚かさや消滅のプロセスを5つの時代に分けて説いています。人類は「黄金時代」「銀の時代」「青銅の時代」「英雄の時代」そして「鉄の時代」を経て、滅亡に至ると予言しています。「今」の時代こそ、その最悪の鉄の時代にあたり、人類は神の裁きによって消滅させられるというのです。妙に現代の世界状況を思わせる予言ではないでしょうか。と同時に私はもう一つ、日本の神話伝承の「倭姫命世記」を思い出します。

融和と平和の巡行の旅

長い巡行のすえに、ようやく天照大御神のご神託が下り、倭姫命とその一行は、伊勢の国の五十鈴川に辿りつきました。そして、その土地に、大御神をお鎮めすることになりました。日本の国づくり(国まぎ)という、神武天皇の東征神話や倭姫命の遠征神話や大國主神の国造り神話が思い浮かびます。これらは、武力による国づくりの要素が強いですが、倭姫命の旅は、信仰と米作りとが一体となった、ソフトパワーによる平和と穏やかな国づくりの旅といえます。

ロシアとウクライナ、イスラエルとパレスチナの過酷な戦争の情報に触れるたびに、私は先のヘシオドスの人類の滅亡神話が思い浮かびます。そして、倭姫の決して敵を作らない融和と平和の旅を同時に想起します。私は倭姫の巡行の旅をたどってみるなら、そこに、今日の平和を築く鍵があると思っています。